



大屋富士

伸びよ 豊かに たくましく

令和元年12月6日
養父市立大屋中学校
学校だより第9号
TEL 079-669-0111

師走 2学期のまとめの時期になりました

11月3日(日)に開催した文化祭での感動から、12月、師走を迎えました。

文化祭以降、11月6日(水)には但馬中学校駅伝競走大会、18日(月)には柚子収穫体験活動、24日(日)には授業参観日とPTA事業「人権講演会」を実施し、先日12月3日(火)には期末考査を終え、いよいよ学期末の到来です。

但馬中学校駅伝競走大会は、例年になく好天(いささか暑いくらいの天候)の中、女子7人、男子8人が参加し、奥神鍋の周回コースに挑みました。但馬内の全ての中学校が出場している状況ではない中、積極的に練習に参加し、大屋中として出場していこうとする生徒の気概に喜びを感じるとともに、自己やチームのタイムを少しでも伸ばそうと懸命に走り、襷を繋いでいく姿に感動しました。きっと、他の学校の選手の予想以上のピッチに驚いたことでしょう。走りながら、おそらくつらかったと思います。予想以上のしんどさを感じたことと思

<但馬中学校駅伝競走大会>

本校：参加者一覧

女子	男子
小畑 栞	羽瀨颯馬
守田珠希	岡 柊蔵
衣川來夢	谷 亮太郎
小倉優菜	中尾優斗
上垣咲季	安達建斗
上垣陽菜	濱 直佑
田村心愛	足立秀斗
	松田颯太

- ・女子…16位/16チーム
- ・男子…23位/25チーム



います。でも、あの場に参加した者、あのコースを走りきった者でしかわからない「何か」をきっと感じとってきてくれていると信じています。その「何か」を次への糧に、悔しさはまた次へのバネにして、挑戦意欲を今後も持ち続けていってほしいものです。

柚子収穫体験活動は、天滝ゆず倶楽部様との連携により3年生が活動を行いました。柚子の枝にはとげもあり、枝からもぐにあたって革手袋をお借りしたりゴーグルを付けたたりして作業をしました。また、収穫した柚子を但馬醸造所に運び、洗浄したり、皮からへた等をとったりする細かな作業も体験しました。

収穫作業をはじめとする一連の作業の中で、例えば、柚子ぼん酢等の商品が世界11カ国に輸出されているなど、天滝ゆずを活用した商品化の需要が高まってきている話を聞く一方で、人口減少・高齢化の影響で栽培人口が減少傾向にあり、栽



<枝からもぐ作業>



<へた等を取る作業>

培そのものが大変になってきている話などを聞きました。

身近にある大屋の柚子が世界とつながっていること、「世界は誰かの仕事でできている」ことをまさに実感できた活動となり、ふるさと大屋のこれからと自分のこれからを改めて見つめ考えることのできる有意義な機会となりました。



〈マリールイズさん〉

授業参観と合わせて開催しましたPTA事業「人権講演会」では、兵庫県ユニセフ協会と連携して、ルワンダ出身の永遠瑠（とわり）マリールイズさんをお招きし、お話を聞きました。すでに日本に帰化され、NPO法人代表として日本からルワンダの教育を支援されているマリールイズさん。流暢な日本語で、ウィットに富んだ温かな話しぶりで、ルワンダの内戦の惨状と難民キャンプでのつらい生活の様子、日本とのつながりが大きな支えとなり今があることなどを話されました。家族とともに生き延びることができたのも、人とつながりながら、「学んだこと」を生かすことができたからと言われました。だから、「出会いに感謝してほしい」「テストのためでなく自分のために勉強してほしい。学んだことが人を生かしてくれるから」というメッセージに心打たれました。マリールイズさんが代表を務める「ルワンダの教育を考える会」に対して本校PTAからお礼の言葉とともに賛助金をお渡しして敬意を表すとともに、今後の活動にエールを送りました。



〈本校PTAからお礼〉

トピックス



昨日12月5日(木)、夏から職員・来校者玄関のショーケースに飾ってあった木彫作品「おとうと」が、左のような作品に変わりました。題して「道くさ」。3人の子どもが学校帰りに雪の傾斜を滑って遊んでいる像です。

見ているだけで童心に帰れるような楽しく、どこか懐かしさを感じる作品です。来校の際に、ぜひご覧ください。

11月15日(金)にビバホールで開催された養父市人権教育推進協議会養父支部・大屋支部による人権フェスティバルでは、本校から上垣菜春さん(3年)が、「祖母の生きる姿を見つめて」という題で人権作文を発表しました。発表内容もさることながら、しっかりとした声で堂々と発表する態度に大きな拍手をいただきました。



〈発表する上垣さん〉

講演会では、障がい者野球で「隻腕のイチロー」と呼ばれるほどに活躍された岡原俊秀氏のお話がありました。利き腕を事故で失ってから、立ち直り、そして世界大会の日本代表にまでなった経緯やご苦労を訥々と誠実に話されるとともに、ボールをキャッチして素早く送球する実演もされ、熱い思いを強く感じることができました。本校にもお招きし、生徒にもぜひ聞かせたい内容でした。



グローブはこちら